

大学共同利用機関法人自然科学研究機構

【N088 自然科学研究機構】

	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	<p>国立天文台（総合研究大学院大学物理科学研究科天文科学専攻（D：2 第3年次：3））</p> <p>核融合科学研究所（総合研究大学院大学物理科学研究科核融合科学専攻（D：2 第3年次：3））</p> <p>基礎生物学研究所（総合研究大学院大学生命科学研究科基礎生物学専攻（D：3 第3年次：6））</p> <p>生理学研究所（総合研究大学院大学生命科学研究科生理科学専攻（D：3 第3年次：6））</p> <p>分子科学研究所（総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻（D：2 第3年次：3）、総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻（D：2 第3年次：3））</p> <p>岡崎統合バイオサイエンスセンター</p> <p>新分野創成センター</p>
沿 革	<p>昭和50（1975）年 分子科学研究所設置</p> <p>昭和52（1977）年 基礎生物学研究所設置（生理学研究所と共に生物科学総合研究機構を形成）</p> <p>昭和52（1977）年 生理学研究所設置（基礎生物学研究所と共に生物科学総合研究機構を形成）</p> <p>昭和56（1981）年 分子科学研究所及び生物科学総合研究機構（基礎生物学研究所、生理学研究所）が統合し、岡崎国立共同研究機構として設立</p> <p>昭和63（1988）年 国立天文台設置</p> <p>平成元（1989）年 核融合科学研究所設置</p> <p>平成12（2000）年 岡崎統合バイオサイエンスセンター設置</p> <p>平成16（2004）年 大学共同利用機関法人自然科学研究機構設立</p> <p>平成21（2009）年 新分野創成センター設置</p>
設置目的等	<p>○大学共同利用機関及び大学共同利用機関法人の設立経緯</p> <p>我が国では、特定分野の研究を行うことを目的とする研究所は、従来、特定大学に附置する形で設置されてきたが、学術研究の発展に伴い、個々の大学の枠を越え、全国の大学から研究者が集って、大規模な施設設備等を共同で利用し、効果的な共同研究を進める組織が求められるようになった。そのため、昭和46年に初めて、特定</p>

大学に附置しない大学の共同利用の機関として、高エネルギー物理学研究所が設置された。以後、種々の学術分野の要請に基づき順次拡大され、各々の分野において高度な学術研究を進める我が国の中核的な研究拠点として発展。平成16年度の国立大学法人化の際、大学共同利用機関法人4機構に再編され、上記に加え、各機構における共同研究等を通じ、時代が要請する新たな学問分野創出への戦略的な取組等を実施。(4機構17大学共同利用機関(平成25年度現在))

○大学共同利用機関法人とは

我が国の学術研究の向上と均衡ある発展を図るため、大学共同利用機関を設置することを目的として、国立大学法人法に基づき設立された法人。

○大学共同利用機関とは

- ・大規模な施設・設備や大量の学術情報・データ等を、個々の大学の枠を越え、全国の大学等の研究者の共同利用に供し、効果的な共同研究を進めるための組織。
- ・研究者コミュニティの意見を反映した運営により、研究者の自由な発想を源泉とする学術研究を推進。

<主な機能>

- 大型施設・設備の提供、学術資料(情報)の収集・保存・提供、学術情報流通基盤の整備、共同利用・共同研究の場の提供
- ・大学院学生の受入れを行うなど、研究と教育を一体的に実施し、人材養成に貢献。

○法令上の規定

(国立大学法人法 別表第二(第二条関係))

【自然科学研究機構】

天文学、物質科学、エネルギー科学、生命科学その他の自然科学に関する研究

※新分野創成に関する研究を行う新分野創成センターを設置。

(国立大学法人法施行規則 別表第一(第一条関係))

【国立天文台】

天文学及びこれに関連する分野の研究、天象観測並びに暦書編製、中央標準時の決定及び現示並びに時計の検定に関する事務

【核融合科学研究所】

核融合科学に関する総合研究

【基礎生物学研究所】 ●

基礎生物学に関する総合研究

【生理学研究所】 ●

生理学に関する総合研究

【分子科学研究所】 ●

	<p>分子の構造、機能等に関する実験的研究及びこれに関する理論的研究</p> <p>※上記●印の3機関の共通の研究施設として、バイオサイエンスの学際領域にまたがる諸問題に対し、分野横断的な観点と方法論を適用し、新しいバイオサイエンスを切り開く研究を行う岡崎統合バイオサイエンスセンターを設置。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>自然科学研究機構は、宇宙、エネルギー、物質、生命等に関わる自然科学分野の拠点的研究機関を設置・運営することを目的としており、国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所及び分子科学研究所の5大学共同利用機関で構成され、各機関の特色を生かしながら、更に各々の分野を超え、広範な自然の構造と機能の解明に総合的に取り組み、自然科学の新たな展開を目指して新しい学術分野の創出とその発展を図るとともに、若手研究者の育成に努める。また、大学共同利用機関としての特性を生かして、大学等との連携の下、我が国の大学の自然科学分野を中心とした研究力強化を図る。自然科学研究機構は、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 総合研究大学院大学の基盤機関として緊密な関係・協力を進めるほか、国内外の大学から大学院生を特別共同利用研究員等として、またポスドクなど若手研究者を多数受入れ、最先端の研究環境を生かした特色ある教育・指導を実施するなど、他大学との連携により学際的・国際的視野を有する若手研究者を育成する。</p> <p>※総合研究大学院大学個票参照</p> <p>○ それぞれの機関の第一線級の研究者を育成することが従来の基本であった。今後は、世界最先端の研究が可能な大型装置や特殊実験装置を有する環境を生かして、国際的にリーダーシップを発揮することが出来る研究者の育成が新たな方向性である。これを踏まえて、総合研究大学院大学、特別共同利用研究員、連携大学院の大学院生、ポスドクを含めた若手研究者への教育指導を実施する。また、研究成果を国際舞台で積極的に評価を受けるため、海外への渡航費の補助などを実施するとともに英語による成果発表の能力の向上に各機関とも努めている。若手の研究者育成については、グローバル化と同時に、広い視野を持つことが重要で、学際領域分野への視点が重要である。このため、生命科学分野では、総合生命科学教育プログラムなどを実施している。この面で、新分野創成センターなども若手教育に関与することも検討課題と考える。</p>

※総合研究大学院大学個票参照

- 天文学、核融合科学、基礎生物学、生理学、分子科学に関する世界の卓越した研究拠点として各分野の先端的・学際的領域の学術研究を推進するとともに、研究者コミュニティの総意に基づき全国の大学等が個別に整備し得ない「すばる」、「ALMA」、「大型ヘリカル装置」など世界的レベルの大型装置、プラズマシミュレータ、放射光施設や様々なイメージング装置等共同利用・共同研究のための先端施設・装置を整備し全国の大学等の研究者の利用に供するほか、研究データ、ナショナル・バイオリソースを提供するなどして共同研究を推進し、我が国の大学の自然科学分野の発展に寄与する。また、各分野の我が国における国際的窓口として国際共同研究・研究者交流を促進するとともに、自然科学の新たな展開を目指して、バイオサイエンスのほかブレインサイエンス、イメージングサイエンス、アストロバイオロジーの分野において研究機関間の分野間連携、新たな学際領域の創造を進める。更に、自然科学の将来像についての検討や研究交流の場を提供するNINS Colloquiumを開催し、自然科学研究分野全体のコミュニティの発展に寄与している。
- シンポジウムの開催や研究施設公開、研究成果の社会への積極的な発信を行うなど、自然科学に対する国民の理解を深める活動を通じて学術の進展に寄与する。また、暦の作成や中央標準時の現示等、国民の生活に必要な業務の遂行により社会的な貢献を果たす。更に、研究成果を基に企業と共同による最先端の観測・実験機器の開発を通じて産業界の技術開発力の向上と人材育成に貢献している。
- 社会人向け講座の実施のほか、社会人入学制度や小中学校の理科教員に対しセミナーを開催し教員の見識を広めることに貢献している。

※総合研究大学院大学個票参照